

I 自然の魅力輝くまち

関連する SDGs



1 環境保全

(1) 現状・課題

- 北区は、福島潟をはじめ、阿賀野川や日本海に面した「海辺の森」、雄大な田園風景など、豊かな自然に恵まれています。これら市民の憩いの場となっている魅力ある自然環境を将来に残していくことが重要です。
- 自然環境の保全には、自然保護活動を積極的に行っている団体の支援や育成が重要です。また、区民の環境保全に対する意識を高めるとともに、地域の保全活動を継続するための体制づくりも求められています。
- 松浜海岸では、冬場の季節風により発生する飛砂が、ひょうたん池や近隣の住宅地に被害を与えており、飛砂防止対策が求められています。
- 福島潟、十二潟やひょうたん池には、希少な動植物が生息・生育しています。希少種の保護や外来種の駆除などが重要です。
- 阿賀野川の河川敷には、スポーツ施設や公園が整備され、憩いの場となっています。
- 公共用水域である新井郷川や福島潟放水路などのさらなる水質の向上が求められています。
- 河川や潟、放水路に沿った地域では、ポイ捨てをはじめとするごみの不法投棄が見られます。このため、意識啓発活動が続けていくことが重要です。



松浜のオアシス ひょうたん池



福島潟でのクリーン作戦

(2) 取り組みの方向性

① 潟や森などの自然環境保全

- 自然環境の保全のため、区民や隣接する自治体などとの連携、協働により環境保全活動の推進に取り組みます。
- 自然保護に積極的なNPO法人などの団体に、情報提供など必要な支援を行います。

② 快適な生活環境づくり

- 家庭などからの排水を下水道や合併処理浄化槽により適切に処理することで、身近な河川や水路の水質保全を図り、公共用水域の環境改善を進めていきます。
- ごみの不法投棄が見られる場所において、清掃活動などを実施し、多くの人に参加してもらうことで環境美化への意識向上につなげます。



松浜海岸でのアキグミの植栽

2 自然環境活用

(1) 現状・課題

- 北区は、豊かな自然から多くの恵みを受けてきました。特に、福島潟や「海辺の森」などでは、魅力ある自然環境を教育や観光に活用しています。
- 福島潟、十二潟やひょうたん池などでは、地元の小・中学生が環境学習に取り組んでいます。このような活動を継続していく体制づくりが重要です。



十二潟での観察会

(2) 取り組みの方向性

① 環境教育・自然とのふれあい

- 自然環境を環境教育や自然体験の場、地域づくりの場、ふれあいと憩いの場として活用します。
- 環境教育に関わるNPO法人などの団体に必要な支援を行います。



福島潟での校外学習

3 観光交流

(1) 現状・課題

- 県内最大の潟である福島潟をはじめ、美しい景勝地や歴史スポットが観光資源として多数存在します。
- 福島潟は、新潟の原風景を今に残し独自の自然環境や食文化などの魅力があります。
- 「海辺の森」周辺では、キャンプ場や遊歩道などが整備され、自然を楽しむ空間として利用されているほか、隣接する島見浜海水浴場は、市内外からの観光客やファミリー層に人気の夏季レジャースポットとして親しまれています。
- 地域の魅力や特徴を活かした観光振興を図るため、宿泊施設の拡充や交通機関のアクセス向上が重要です。



海辺の森 キャンプ場

(2) 取り組みの方向性

① 交流人口の拡大

- 令和4(2022)年に「ラムサール条約湿地自治体認証制度」に基づく国内初の認証を受けた都市として、引き続き福島潟をはじめとする湿地の保全並びに自然環境の賢明な利用につなげます。
- 訪れた人が北区の観光を満喫できるよう、自然環境などを活かした観光資源の充実に努めます。
- 地域の魅力を発信するとともに、観光振興に携わる人材を育成し、交流人口の拡大を図ります。



福島潟自然文化祭 かんげいび 雁迎灯



観光バスツアー

II 未来へ続く活力あるまち

関連する SDGs



4 商工業

(1) 現状・課題

- 国際拠点港湾・総合的拠点港である新潟東港は、東アジア諸国を結ぶコンテナ航路が開設されており、国際貿易港として機能整備が進められています。コンテナ貨物取扱量は、本州日本海側最大となっています。
- 新潟東港は物流機能だけでなく、クルーズ客船の寄港などを通して観光振興につなげていくことも重要です。
- 新潟東港、新潟空港、国道7号（新新バイパス）や高速道路などの交通網も整備されていることから、産業立地に優位な環境にあります。
- 区内には多くの工業団地があり、製造業や物流関連企業が集積しています。
- 国内外の著しい変化などに対応しながら、地域産業の活性化や雇用の拡大へつなげるため、この恵まれた立地環境を活かし、さらなる企業誘致を進めることが重要です。
- 国内外の企業間競争が厳しくなる中、国際的にも通用する新技術の開発や、労働生産性の向上が求められています。



新潟東港に寄港したクルーズ客船

【北区の製造業の推移】

項目	年度	H 19	H 23	H 27	R 1
製造品出荷額(百万円)		184,417	158,065	198,951	223,887
食料品		34,218	32,283	43,527	45,768
化学工業		89,704	75,146	89,474	100,762
金属製品		8,601	8,394	12,122	11,867
汎用機械	15,537		4,916	7,467	12,144
生産用機械			4,752	5,472	12,389
その他		36,357	32,574	40,889	40,957
付加価値額		88,205	80,535	92,223	100,873

資料：工業統計調査

- 商店街は、郊外型大型店の進出などの影響や後継者不足により衰退が進み、空き店舗が増えています。
- 商店街の魅力を高め、広く発信するとともに、経済、社会環境の変化に対応するため、集客力を高める事業を再構築していくことが重要です。
- 葛塚と松浜には伝統ある露店市が開かれ、多くの買い物客で賑わってきましたが、近年、出店者の高齢化に伴い店舗数の減少が進んでいます。

(2) 取り組みの方向性

① 工業の振興

- 原料の輸入や製品の輸出など、新潟東港の活用促進に努めます。
- 企業誘致を推進するため、製造業などの工場や物流施設の建設を支援します。
- 中小企業者の生産性向上、脱炭素化に向けた取り組みを促進します。



松浜地区の工場夜景

② 商業の活性化

- 商店街団体などの活動を促進し、まちの活性化を図ります。
- 商業、農業、観光、大学など各分野の関係機関と連携し、地域の賑わい創出に取り組みます。
- 商工会など関係団体と連携し、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進による新事業への取り組みを支援します。
- 葛塚市・松浜市の連携事業や地域が行う活性化イベントの取り組みを支援し、新規参入店舗の促進を図り、来訪客の増加につなげます。



葛塚市



松浜市

5 農業

(1) 現状・課題

- 米を中心に野菜、花きなど、多種多様な農産物の生産が行われ、中でもトマトとなすは、県下一の出荷量を誇っています。その一方で農業者の高齢化や担い手不足により、農業者数や生産量が減少しており、所得安定や、農業経営の担い手確保が重要な課題となっています。
- 農地、とりわけ水田の多くは海拔ゼロメートル以下の低地にあり、降雨時の排水をポンプに依存しているため、継続的に施設保全を行うことが重要です。
- 水田や畑などの農地は、貯水・遊水機能とともに、水資源かん養や水質浄化機能も果たしています。果樹園は、花が咲く季節には、美しい景観を形成しています。こうした環境の維持、保全を続けていくことが重要です。



美しい水田



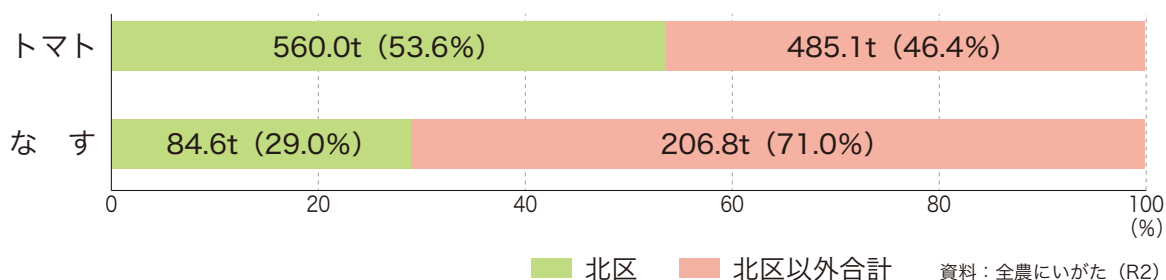
県下一の出荷量を誇るトマト

(2) 取り組みの方向性

① 農業の振興

- 生産コスト低減、農産物の高品質化と付加価値向上を図り、「儲かる農業」を推進します。

【北区産トマト・なすの県内における出荷量】



- 農地の集積・集約化による農作業の効率化を図るとともに、意欲ある新たな就農希望者への支援・育成を推進し、農業経営の担い手確保に努めます。

② 農業基盤の整備保全

- 「儲かる農業」の実現に向け、農道や水路などの整備保全を行い、生産性の向上を図ります。

6 大学などとの連携

(1) 現状・課題

- 区内には2つの大学が立地し、学生が多いことから、この若い力を活かし、住み続けたいなるまちづくりを望む声が多くあります。
- 平成22(2010)年に新潟医療福祉大学と包括連携協定を結び、連携事業を継続して行っており、活動の場が広がっています。

(2) 取り組みの方向性

① 若者との協働によるまちづくり

- 大学や区内で活動している団体、民間企業などと多様な連携をさらに深めます。
- 若者や民間企業などの発想や専門的知見を活かし、まちの活性化につながる取り組みを支援することで、地域が主体的に取り組むまちづくりにつなげます。



うまいもん市場で出店した大学生のブース



大学生によるまちづくりワークショップ

7 道路

(1) 現状・課題

- 国道7号（新新バイパス）、国道113号、日本海東北自動車道などの東西を貫く幹線道路が充実し、市中心部方面と新発田市方面への接続には高い利便性があります。
- 今後は、各区へつながる新潟中央環状道路や、区内の拠点をつ結ぶ南北の道路のさらなる整備が重要となります。
- 道路などの老朽化による維持管理費の増加が見込まれています。日常の生活環境を維持するため、継続的に維持管理を行い、生活道路網を確保していくことが求められています。



新潟中央環状道路（浦木地区）

(2) 取り組みの方向性

① 道路の整備・維持管理

- 区内外の拠点を結ぶ、利便性の高い道路の整備を行います。
- 日常の生活環境を維持するため、道路などの維持管理を継続的に行います。

8 土地利用

(1) 現状・課題

- 水田や畑などの農地が、区内全域に広がっています。新潟東港、濁川地区などには工業団地があり、松浜・濁川・早通・木崎・葛塚地区は、住宅地に利用されています。
- 区全体のまちづくりに向け、今後都市機能の拠点となる地区の計画的な土地利用が求められています。

(2) 取り組みの方向性

① 計画的な土地利用

- 既存市街地やその周辺、物流や教育などの機能を有する地区において、計画的な土地利用を進めていきます。

9 公共交通

(1) 現状・課題

- 東西方向にＪＲ白新線、路線バスが運行され、市中心部と区内の主要な地域が結ばれています。南北方向には、区が運営主体である区バス、地域住民が運営主体である住民バスが運行され、それぞれＪＲ豊栄駅、新崎駅に結節しています。
- 区内には、公共交通を利用しにくい地域があるほか、高齢化もさらに進むことなどから、引き続き生活交通の検討をしていくことが重要です。

(2) 取り組みの方向性

① 公共交通の充実

- 区バス・住民バスについて、運行内容などを継続的に見直し、生活交通としての利便性の向上に努めるとともに、持続可能な公共交通の実現を目指し取り組みます。



北区 区バス



北区住民バス おらってのバス

- エリアバス×タクやデマンド交通などの社会実験を通して、地域に即した公共交通になるよう取り組みます。
- 公共交通を利用しにくい地域について、引き続き地域の声を聴きながら、生活交通などの検討をしていきます。



エリアバス×タク Let's ながうら号

Ⅲ いきいきと心豊かに暮らせるまち

関連する SDGs

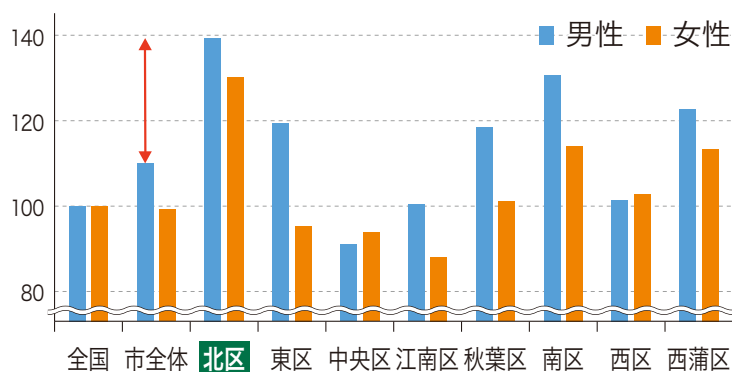


10 健康

(1) 現状・課題

- 本市は全国に比べ脳血管疾患による死亡率が高く、中でも北区は脳内出血の死亡率が群を抜いて高くなっています。脳出血を引き起こす要因には、高血圧や喫煙などがありますが、血圧が高い人の割合が市内で一番高く、運動や食事といった生活習慣の改善と定期的な健診による予防が重要です。
- 北区では高齢化が市全体を上回るスピードで進行しています。誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすため、地域ぐるみで介護や認知症を予防する取り組みを進めることが重要です。
- 生涯にわたり健康を維持していくためには、子どもの頃からの健康に対する意識付けが大切です。

【脳内出血の標準化死亡比】



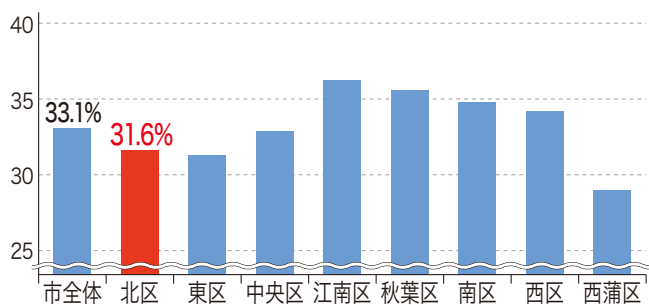
資料：厚生労働省 人口動態保健所・市町村別統計（H25-29）
※標準化死亡比 全国100とした場合

(2) 取り組みの方向性

① 健康に暮らせる地域づくり

- 一人一人が自分の健康状態を把握し、病気の早期発見・治療に結びつけられるよう、特定健診や各種検診の受診率向上に取り組めます。
- 認知症の予防や早期発見を図るため、関係機関と連携し周知・啓発に取り組めます。
- 保健師、栄養士による個別相談会や講習会を通じ、健診結果の数値改善や、食生活の改善などにつなげます。

【各区の特定健診受診率】



資料：特定健康診査等の実施状況（実績値）(R2年度)

- 健康づくりのための運動を支援する講座の開催に加え、運動普及推進委員やフレイルサポーターなど地域で活動するボランティアと連携し、「地域の茶の間」や老人クラブなどで出前講座を実施し、地域ぐるみで健康寿命の延伸に取り組めるよう支援します。
- 小・中学校と連携しながら、保護者や子どもたちに健康づくりの啓発と生活習慣病予防の周知に取り組みます。



フレイルチェック

11 福祉

(1) 現状・課題

- 高齢化や少子化の進行に加え、地域や個人が抱える課題は多岐にわたり、より複雑化しています。誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすため、「地域共生社会」の実現が重要です。
- 介護予防や医療、生活支援において多様化するニーズに対し、様々なサービスや地域活動を組み合わせて総合的に対応できることや、分野ごとの支援だけでは十分に対応できない制度の狭間の課題を解決する仕組みづくりが求められています。
- 障がいのある人の高齢化が進んでおり、住み慣れた地域で継続して安心した生活を送ることができるよう、本人・家族への地域における支援体制や多様化するニーズに対する支援体制の確保・構築が重要です。

(2) 取り組みの方向性

① 支え合える地域づくり

- 「支え合いのしくみづくり会議」や「ござれやネット」などの関係機関と連携し、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの充実をさらに進めます。
- 「地域の茶の間」の充実と新たな立ち上げの支援に取り組むとともに、住民が主体となった生活支援の取り組みを促進します。



支え合いのしくみづくり会議の様子



地域の茶の間の様子

- 障がい者福祉施設や関係団体が一体となり、既存の社会資源などを組み合わせて活用し、多面的な支援体制の確保、構築を図ります。
- 障がいや介護などに関する様々な機関が協働し包括的に支援する重層的な体制を構築し、誰もが住みなれた場所でいきいきと心豊かに暮らせるまちづくりを目指します。

12 子育て

(1) 現状・課題

- 少子高齢化や共働き家庭の増加などにより、子育て環境は大きく変化しており、育児の悩みや心配ごとを相談できる人が身近にいないという世帯が増えています。
- 子育て世帯の孤立を防ぐため、妊娠・子育てに関する総合相談に加え、子育てネットワークの構築など子育てを支え合う仕組みづくりが重要です。
- 全ての子どもが豊かな子ども期を過ごすことができるまちを実現するため、子育て支援施設などの関係者が連携・協力し、子どもを地域全体で見守っていくことが重要です。

(2) 取り組みの方向性

① 子育て支援の環境づくり

- 「妊娠・子育てほっとステーション」において、保健師や助産師、保育コンシェルジュ、子ども家庭支援員などの専門職が妊娠期から育児期にわたりその時期に応じた相談にワンストップで応じ、関係機関と連携しながら子育てを支援します。
- 子育て支援センターや児童館などで子育て支援講座を実施するほか、子育て世帯の交流会を通じ、ネットワークづくりに取り組みます。
- 既存の児童館を拠点に各地域で出張児童館を展開するほか、子どもが健やかで心豊かに過ごせる地域の居場所づくりの取り組みを推進します。



自宅でできる運動教室（子育て支援講座）



公民館での出張児童館

13 教 育

(1) 現状・課題

- 一人一人の子どもの学びと成長を支える学習環境の支援と活力あるまちづくりに向けて、学校と地域が一体となった教育活動の仕組みづくりが重要です。
- 社会環境が急速に変化する中、人権や多様性を尊重し、地域課題の解決や自己実現に向けた学習機会の提供が求められています。

(2) 取り組みの方向性

① 地域とともにある学びの場

- 「コミュニティ・スクール」の導入により、学校と地域が共通の目標を持って、学校、社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、子どもの豊かな成長を支える協働事業を推進します。
- 大学と連携し、区内の学校における児童・生徒の学習支援や学校行事、部活動に対する支援を行い、学力・運動能力などの向上を図ります。
- 地域課題や多様なニーズに応じた学習機会を充実させ、学びを通じた地域の絆づくりを推進します。



地域と取り組む学校の農園活動
(地域と学校パートナーシップ事業)



中学生ガイドと一緒に歩こうまちあるきツアー



美術企画展のワークショップ



サタデイキッズ(町探検)

14 文化・スポーツ

(1) 現状・課題

- 伝統や文化を伝える人や機会の減少などにより、地域への誇りや愛着を持てる環境が失われつつあります。活力あふれるまちづくりを進めるため、区民が郷土の歴史・文化・芸術に触れる環境づくりが重要です。
- 生涯を通じて気軽にスポーツに親しめるような取り組みや、多様な団体が主体となり、人と人をつなぐ、スポーツ・レクリエーション活動への支援を進めています。



葛塚まつり



福島潟駅伝競走大会

(2) 取り組みの方向性

① 文化・芸術・スポーツ活動の活性化

- 区民が郷土の歩みを学ぶ機会や、文化・芸術に親しむ機会を創出するとともに、地域の歴史・文化・芸術活動を担う人材を育成します。
- 区民が主体となる文化・芸術活動への支援を通じ、地域の活性化や交流人口の拡大を図ります。
- 各スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの活動を支援し、区民が気軽にスポーツ活動に参加できる機会の充実を図ります。



高森の神楽



北区フィルハーモニー管弦楽団演奏会

15 協働

(1) 現状・課題

- 都市化の進展などによるコミュニティ意識の希薄化や人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域活動の担い手不足が問題になっており、これからのまちづくりを支える人材の育成が求められています。
- 区民のニーズや地域課題が多様化・複雑化しており、区民のニーズを捉えたまちづくりや地域課題の解決を推進するために、より一層の情報共有や意見交換が重要です。

(2) 取り組みの方向性

① 区民との協働推進

- 区自治協議会、地域コミュニティ協議会および自治会活動の支援や活動内容の周知、研修などの学習機会の提供を通して、人材の育成に取り組みます。
- 幅広い世代が、性別に捉われず共同で参画し、地域活動に関わることができるような仕組みづくりを推進することで、地域活動の担い手確保につなげます。
- 多様化・複雑化する区民ニーズや地域課題に対応するため、コミュニティ活動や区自治協議会などでの意見交換が活発に行われるよう取り組みます。



地域住民などによるクリーン活動



区ビジョンまちづくり計画策定ワークショップ
(北区自治協議会)

IV 安心・安全で住みよいまち

関連する SDGs



16 防犯・交通安全

(1) 現状・課題

- 区民が安心して暮らしていくため、犯罪が発生しにくいまちづくりへの取り組みが求められています。
- 自治会やコミュニティ協議会などには、防犯活動を行う団体が組織されていますが、活動人員の高齢化や後継者不足が問題となっています。
- 交通事故の件数は年々減少傾向にあるものの、高齢者が関わる交通事故は毎年高い割合を占めています。子どもたちだけでなく高齢者を対象とした、交通安全への取り組みが重要です。



郵便局による防犯パトロール



登下校の見守り

(2) 取り組みの方向性

① 防犯対策

- 犯罪を未然に防ぐため、防犯設備の整備支援や、地域と連携したパトロールなどの防犯活動を継続して行います。
- 防犯活動を持続的に行うため、地域コミュニティ協議会、自治会や小学校の見守り隊などの防犯活動団体が、お互いに連携協力していく仕組みづくりを検討していきます。

② 交通安全の推進

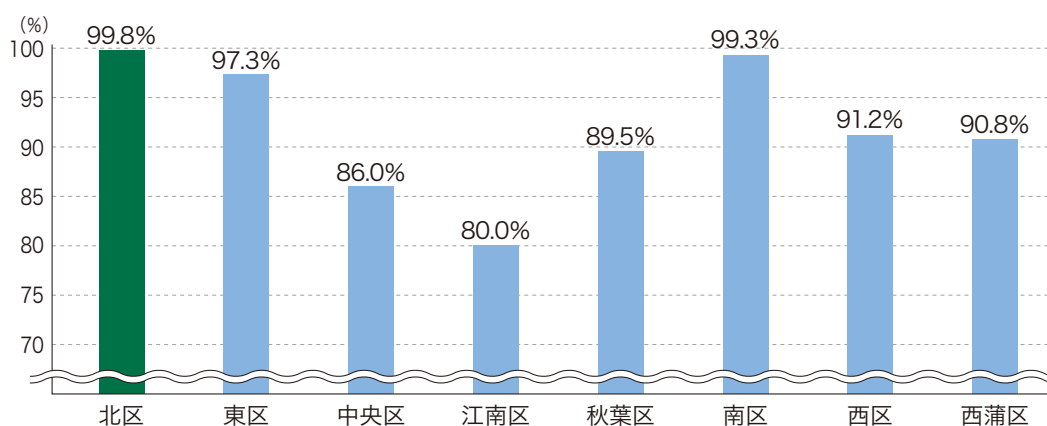
- 交通事故を防ぐため、地域、警察や関係団体と連携し、交通安全に関する啓発活動を行い、区民の意識向上に努めます。
- 交通事故防止に向けて、自治会、町内会とともに高齢者を対象とした交通安全教室を実施します。

17 防 災

(1) 現状・課題

- 気候変動により豪雨や台風といった自然災害が激甚化・頻発化しています。日頃から地域の災害リスクを把握し、避難行動を検討するなど、各自で災害に備えることが重要です。
- 避難行動要支援者への支援や避難所運営などを行うにあたり、地域で助け合う体制づくりが求められています。

【自主防災組織結成率】



資料：新潟市危機管理防災局防災課調べ（R3年度）

(2) 取り組みの方向性

① 災害時に助け合える地域づくり

- 一人一人が判断して行動できるように自助意識の啓発に努めます。
- 避難行動要支援者に寄り添い、地域で助け合う仕組みづくりを促進します。
- 防災士が地域に積極的に関わられるよう支援します。
- 避難所運営を担う組織体制の構築を促進します。



防災イベント

18 浸水対策

(1) 現状・課題

- これまでの度重なる水害により福島潟放水路などが整備されましたが、依然として近年の都市化の進展や局所的な豪雨により、市街地の浸水被害が発生しています。
- 浸水対策や治水対策の強化が重要です。

(2) 取り組みの方向性

① 雨に強いまちづくり

- 雨水対策施設は、過去の浸水被害状況や現在の整備水準などにより、優先度の高い地区から整備を進めます。
- 市街地と農地の浸水対策として、福島潟やその周辺において実施する新潟県の河川改修事業などを促進します。



雨水貯留施設の整備